

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

この度、下記項目につきまして検査内容を変更させていただく事となり、取り急ぎご案内いたします。

誠に勝手ではございますが、何卒事情ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

対象項目

項目コード	検査項目	検査案内掲載頁
507	プロラクチン	P.37
564	エストラジオール E2	P.43
624	フェリチン	P.67

※変更内容についての詳細は次頁以降をご確認ください。

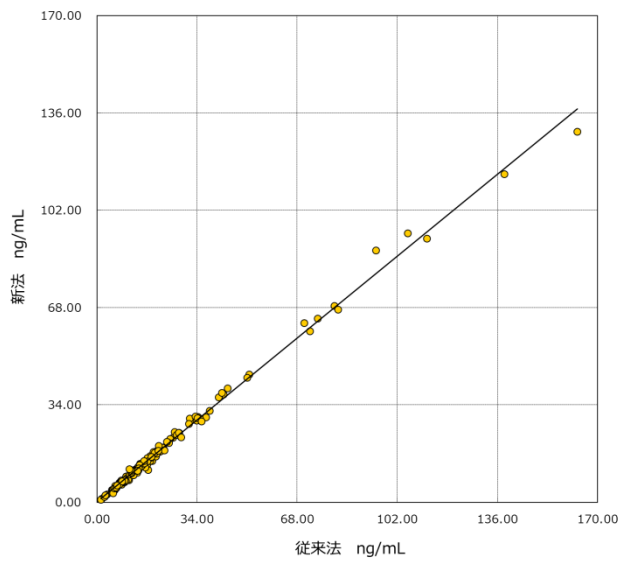
変更期日

- 令和5年12月25日（月）受付分より

変更内容①

項目番号	検査項目	変更内容	新	旧
507	プロラクチン	検査方法	CLEIA法	CLIA法
		報告範囲	0.25 ~ 1999.9 ng/mL	0.82 ~ 1999.9 ng/mL
		報告上限	2000.0 ng/mL 以上	2000.0 ng/mL 以上
		報告下限	0.25 ng/mL 未満	0.82 ng/mL 未満
		基準値	男性：2.64~13.13 ng/mL 女性 閉経前： 3.34~26.72 ng/mL 女性 閉経後： 2.74~19.64 ng/mL メーカー参考値より	男性：3.58~12.78 ng/mL 女性：6.12~30.54 ng/mL
		報告桁数 (小数)	整数3桁まで小数第2位、 整数4桁から小数1位	整数3桁まで小数第2位、 整数4桁から小数1位
564	エストラジ オールE2	検査方法	CLEIA法	CLIA法
		報告範囲	15 ~ 99999 pg/mL	10 ~ 99999 pg/mL
		報告上限	100000 pg/mL 以上	100000 pg/mL 以上
		報告下限	15 pg/mL 未満	10 pg/mL 未満
		基準値	男性：15~32 pg/mL 非妊娠女性 卵胞期前期(初期)：22~115 pg/mL 卵胞期中期：25~115 pg/mL 排卵ピーク：32~517 pg/mL 黄体期中期：37~246 pg/mL 閉経後女性：25 pg/mL 以下 メーカー参考値より	男性：19~51 pg/mL 正常月経周期女性 卵胞期：19~226 pg/mL 排卵期：49~487 pg/mL 黄体期：78~252 pg/mL 閉経後：39 pg/mL 以下 妊婦 前期：780~16600 pg/mL 中期：1150~36600 pg/mL 後期：5450~44900 pg/mL
		報告桁数	整数報告	整数報告
624	フェリチン	検査方法	CLEIA法	CLIA法
		報告範囲	1.0 ~ 999998 ng/mL	2.0 ~ 33510 ng/mL
		報告上限	999999 ng/mL 以上	33511 ng/mL 以上
		報告下限	1.0 ng/mL 未満	2.0 ng/mL 未満
		基準値	男性：24.0~268.0 ng/mL 女性：3.0~121.0 ng/mL アジア地域共有基準範囲設定国際プロジェクト 2009 日本国内データ より *鉄欠乏性貧血または鉄欠乏症の診断基準となる血清フェリチン値は12.0 ng/mL未満 [鉄剤の適正使用による貧血治療指針(日本鉄バイオサイエンス学会)]	男性：21.8~274.7 ng/mL 女性：4.6~204.0 ng/mL *鉄欠乏性貧血または鉄欠乏症の診断基準となる血清フェリチン値は12.0 ng/mL未満 [鉄剤の適正使用による貧血治療指針(日本鉄バイオサイエンス学会)]
		報告桁数 (小数)	整数4桁まで小数第1位 整数5桁から整数のみ	整数4桁まで小数第1位 整数5桁から整数のみ

変更内容②



項目名	プロラクチン
単位	ng/mL

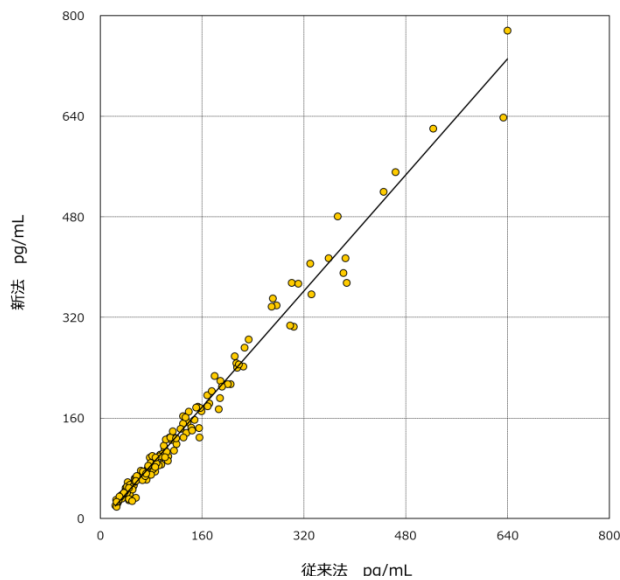
試料Y	新法
処方	CLEIA法

試料X	従来法
処方	CLIA法

$$y=0.841x+0.153$$

$$r=0.998$$

$$n=159$$



項目名	エストラジオールE2
単位	pg/mL

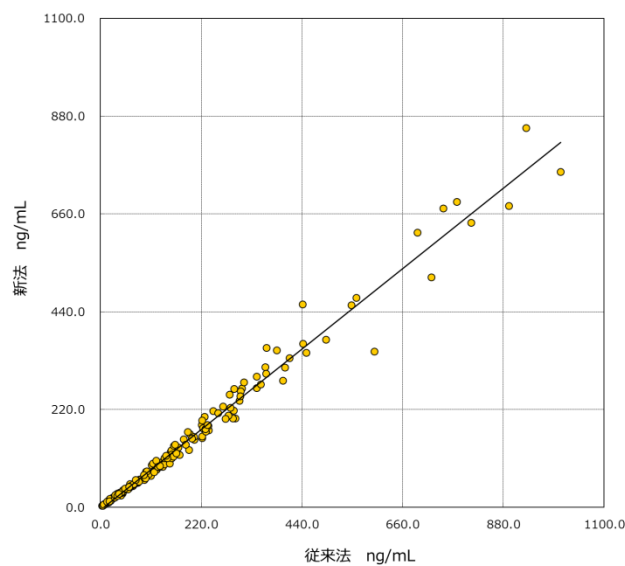
試料Y	新法
処方	CLEIA法

試料X	従来法
処方	CLIA法

$$y=1.154x-7.746$$

$$r=0.991$$

$$n=148$$



項目名	フェリチン
単位	ng/mL

試料Y	新法
処方	CLEIA法

試料X	従来法
処方	CLIA法

$$y=0.822x-5.704$$

$$r=0.990$$

$$n=160$$